



第1802回 例会

2011 - 12年度RI会長: カルヤン・ハ'ネルジ'ー
 第2640地区ガバナー: 大澤 徳平
 創立: 昭和49年5月15日
 会長: 上原俊宏
 幹事: 佐田一三
 会報: 榎本真弓



VOL.38 No.6

2011年 8月24日(水)

事務所: 田辺市下屋敷町81 - 10
 きのくに信用金庫田辺支店3F
 Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008
 E-mail t-eastro@mb.aikis.or.jp
 例会: 毎週水曜日 12:30 ~

司会者 上原 俊宏会長

唱歌

"日も月も星も" 山本 亘 君



ゲスト

白浜町教育委員会 生涯学習係 学芸員 佐藤 純一様

出席報告

会員数	義務免除	欠席者数	本日出席率
49名	4名	12名	73.33%
8月17日修正出席率			81.82%

ニコニコ箱

(敬称略)

佐藤 純一様をお迎えして。 藍畑・愛須
 片井・木村・北村・小山・森本・中嶋・岡本
 佐田・坂本・武田・竹村・玉置・上原・吉本
 土曜日ゆうゆうフェスティバルがんばります。

平野

吉本さん次回卓話者は東大理学部だそうです。
 こんな学者の知り合いとは、人は見かけによら
 ないですね。 谷中

吉本さん、蜂退治できました。 中川
 ありがとうございました。
 隠岐さん、小倉さんお帰りなさい。

浦地・丸山(博)・楠本・谷峯

病気復帰お久しぶりです。 小倉
 病気回復、皆さんお久しぶりです。 隠岐
 会長席の花頂きます。 本田

会長報告の前に・・・

最近流行のソーラーパネルだけでなく、昔から植物の多くは明るい夏の季節に葉を広げます。主に光合成をして樹木を育てるのです。したがって旧八月のことを葉月ともうします。今期の標識語を「落葉帰根」としましたが、落葉は突然に秋に形成されるのではなく、盛夏の最中からその準備をしているのです。植物が光合成をするというのなら、ヒトは本を読むと言うことに成るのでしょうか。最近めっきり本を読まなくなった上原から、三校寮歌の一編を。

- 妻をめとらば 才たけて みめ美わしく 情けある
友を選ばば 書を読み 六分の俠気 四分の熱
- 我にダンテの 奇才なく
バイロン、ハイネの 熱なきも
石を抱きて 世にうたう 芭蕉のさびを よるこぼす

葉帰根を成就するために、本を読みましょう。

会長報告

本日のお客様は、白浜町教育委員会 生涯学習係学芸員、佐藤純一様です。後ほど、宜しくお願致します。

RI事務局より当会員の武田静也君にポール・ハリス・フェローの認証状とバッジのセットが届いています。



幹事報告

例会日時変更

海南西RC 9月15日(木) 9月18日(日)

場所: 近江八幡方面

西国第三十一番札所 長命寺

西国第三十二番札所 観音正寺

和歌山北RC 9月12日(月) 9月14日(水)

場所 ルミエール華月殿 5F 例会場

海南東RC 9月5日(月) 時間変更19:00~

場所: 海南商工会議所4F 回覧

海南RC 8月31日(水) 休会

回覧

- ・ガバナー事務所「R財団寄付一覧表」「月信8月号」
- ・「ロータリーの友」地区だより連絡
- ・9月のロータリーレートは1ドル = 78円です。

堀君からひおうぎ(檜扇)のお花と種を頂きました。ありがとうございました。



本日のプログラム

白浜町教育委員会 生涯学習係 学芸員
佐藤 純一様



郷土の偉人 小山肆成(蓬洲)について



1. はじめに

2. 小山肆成(蓬洲)について

小山肆(し)成(せい)(号蓬(ほう)洲(しゅう))
 幼名 小文治 元服後 敬介
 文化4年(1807)生
 文久2年(1862)没 享年56歳
 和歌山県西牟婁郡白浜町(旧日置川町)久木出身
 小山家(熊野水軍の末裔)
 天然痘の撲滅のため国産の牛痘苗(嘉永2年(1849))をつくることに成功
 神坂次郎に「北の青洲(華岡)、南の蓬洲」と号され、華岡青洲と並ぶ医聖

3. 天然痘について

天然痘...痘瘡(とうそう)や疱瘡(ほうそう)とも呼ばれ、天然痘ウイルスを病原体とする感染症のひとつ。非常に強い感染力を持ち、全身に膿を生じさせ、治っても痕が残ることから世界中で、不治の病として恐れられてきた。イギリスの医学者エドワード・ジェンナーの手による牛痘法により、天然痘の予防が可能となり、日本では、肆成の他には、適塾の緒方洪庵が天然痘撲滅のため積極的に研究を行っている。また、中国の邱洪川(きゅうこうせん)は、ジェンナーが著した牛痘法の方法を「引痘論」をして中国語に要約している。この「引痘論」を肆成は、さらに日本語に翻訳し、注釈を加えたものを「引痘新法全書」として発刊している。

歴史上の人物では、平安時代の藤原4兄弟(藤原不比等の子)が全員天然痘で亡くなっている。初代アメリカ大統領のジョージワシントンや伊達政宗が幼少時に発病し、一命をとりとめたが、顔には一生痣がのこっていた。1980年5月8日にWHO(世界保健機構)により根絶宣言がおこなわれた。

天保、弘化、嘉永年間に全国的に流行した天然痘は肆成の故郷日置川でも猛威をふるったようで、記録に残るかぎり、天保6年(1835年)、天保7年(1836年)、天保9年(1838年)、天保10年(1839年)に天然痘(疱瘡)についての記述がある。

4. おわりに

郷土の偉人にたいする顕彰活動を推進することにより、みずからが住んでいる地域に誇りを持つことができる。

小山肆成略年譜

1028	徳元 元	8月、京野地方で初めて痘瘡が流行り、死者が多数出た。
1770	明和 7	日置川で痘瘡が大流行する。
1773	安永 2	。
1795	寛政 7	緒方春樹が我が国最初の痘瘡書である「種痘必勝論」を著す。
1796	寛政 8	イギリスで、ジェンナーが牛痘法を創始する。
1807	文化 4	小山肆成、久本にて誕生。
1817	文化 14	彦根川で「引痘論」を撰す。
1822	文政 5	兄・小山文明、京都にて没す。
1823	文政 6	シーボルトが長崎出島に寄託(日本人の子どもにジェンナーの牛痘法を実施するも失敗)。
1824	文政 7	北海道で天然痘が流行し、中川五郎治が日本で最初の種痘を実施し、成果を上げる。
1831	天保 2	新治川で「引痘論」を刊行する。
1834	天保 5	小山肆成、兄・文明の墓を京都宗徳寺に建立する。
1835	天保 6	藍洲寺開設す。種方洪庵が大塚に蘭学塾を開く。
1838	天保 9	紀州藩内に痘瘡が流行する。
1841	天保 12	江戸の大規模書、長崎年寄の高島因幡大夫より牛痘苗を得て接種する。これが江戸における牛痘接種のはじまりである。
1842	天保 13	熊野地方で痘瘡が流行する。
。	。	「引痘論」が我が国に伝わる。
。	。	小山肆成が高橋初編より「引痘論」を入手して「引痘新書」序文を執筆する。
1846	弘化 3	肥前佐賀藩の特使である物原春が「引痘論」を転写する。
1847	弘化 4	小山肆成が「引痘論」を校閲し、「引痘新法全書」として大阪・京都・江戸の書店より出版する。
。	。	これによりジェンナーの牛痘法が広く我が国の人々に知られるようになる。
。	。	この年に、小山肆成は引痘不再論を唱える。(当時、11歳)
1849	嘉永 2	小山肆成が我が国最初の牛痘化痘苗の実験に成功する。(43歳)「引痘新法全書付録」をカナ文字で出版する。引痘官用四家論を唱える。
1852	嘉永 5	尚書院発行の「平安人物誌」に小山肆成の名が挙げられる。
1857	安政 4	小山肆成の世話により、田野井の山崎観音堂を京都の仏師八木治郎左衛門が修理する。
1862	文久 2	小山肆成、没す(京都山下区高台五条下る宗徳寺に葬る)。享年56歳。
。	。	和歌山の島屋治右衛門書家に種痘話を送り、根の胞菌にあたる。
1937	昭和 12	神戸新聞に「小山肆成山行が故目録載される。
1941	昭和 16	『日本医学史』(医学博士 富士川義 著)に小山肆成の業績が記述される。
1942	昭和 17	『四国医学史』(古川十 著)巻2に小山肆成の牛痘実験成功が記述される。
1947	昭和 22	『種痘』(医学博士 矢野秀武 著)に小山肆成の業績が記述される。
1962	昭和 37	小山肆成百年追悼法事が京都宗徳寺にて執行される。
。	。	和歌山県文化協会より先覚文化功労者として顕彰される。
1980	昭和 55	WHOより「天然痘根絶宣言」が出される。
2007	平成 19	小山肆成 生涯200年のついでが図庫される。
2008	平成 20	小山肆成顕彰会 設立大会が開催される。